

ふるさと歴史散歩

「鷹架沼南館ツアー」 2023.4.29

【日程】 9:30 六ヶ所村 六ヶ所館の駐車場に集合→9:40 鷹架沼ゆとり駐車場から鷹架沼南館を観察（遠景）→10:00 鷹架沼南館を実地踏査（空堀、横堀、埋まりきらない多数の住居跡）12:30 現地解散



上北郡内には古城が95か城が存在し、多いところは、旧十和田市が28、旧七戸町が15、旧十和田湖町が17、六ヶ所村の7か城である。これは、古くは奈良時代・平安時代以前から生活拠点として、中世から近世にかけては、南部氏の支配の戦略上の極めて重要な地域であったことがわかる。

六ヶ所村の城郭は外見上気づかれない陰性が多く、河谷に臨んだ尾根や台地の末端を利用したものが多い。郭内外に住居用の竪穴があり、不意の敵の来襲に備えた防御のもので、防御性集落の特徴を示している。

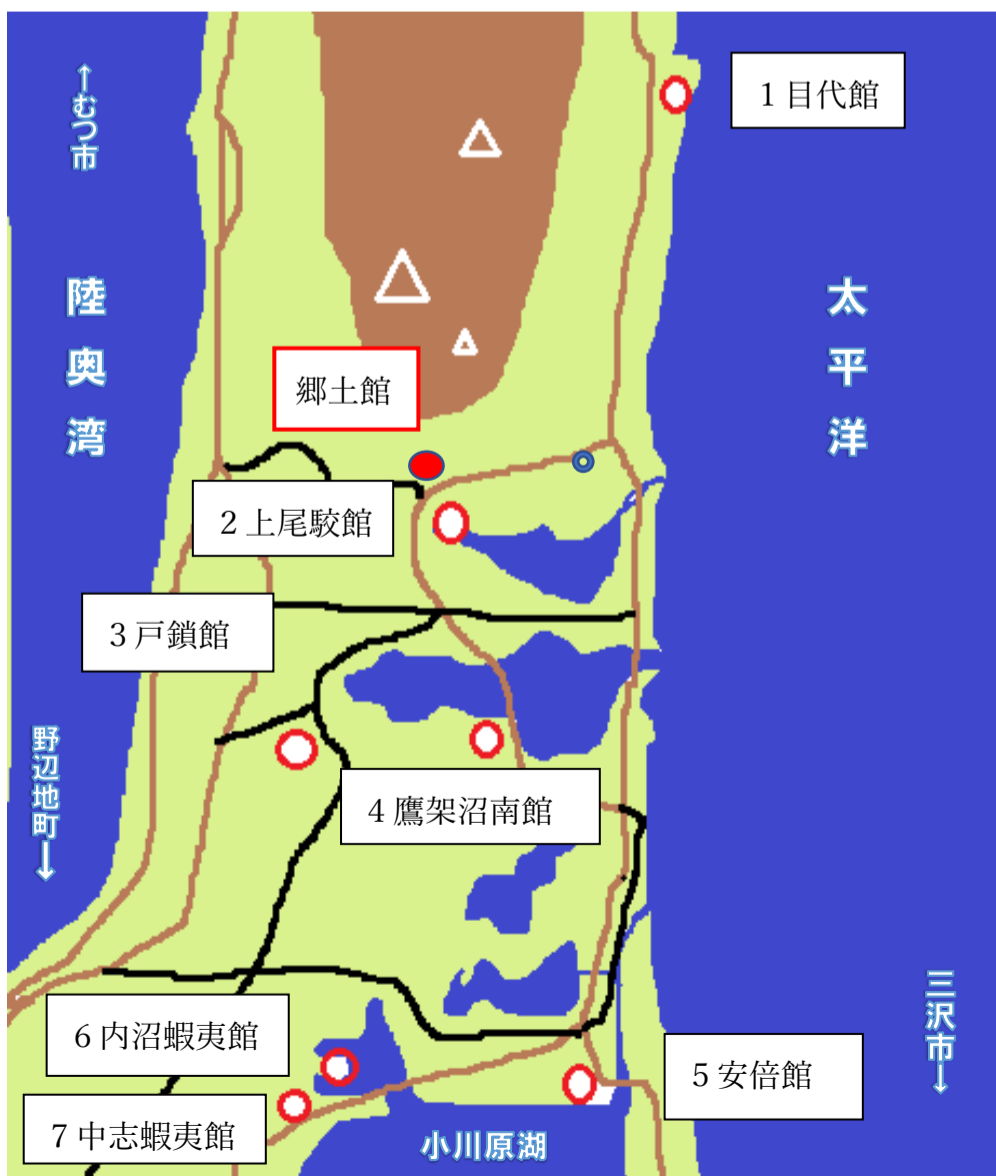
その他に、方形の郭と堀を有する安倍館。主郭や副郭、堀切や竪堀、虎口や腰曲輪等を有し中世の城郭と考えられる目代館がある。

館の形態は次のとおりである。

- 1 丘先式：目代館、戸鎖館、鷹架沼南館、内沼蝦夷館、中志蝦夷館
- 2 丘頂式：上尾駮館
- 3 面崖式：安倍館

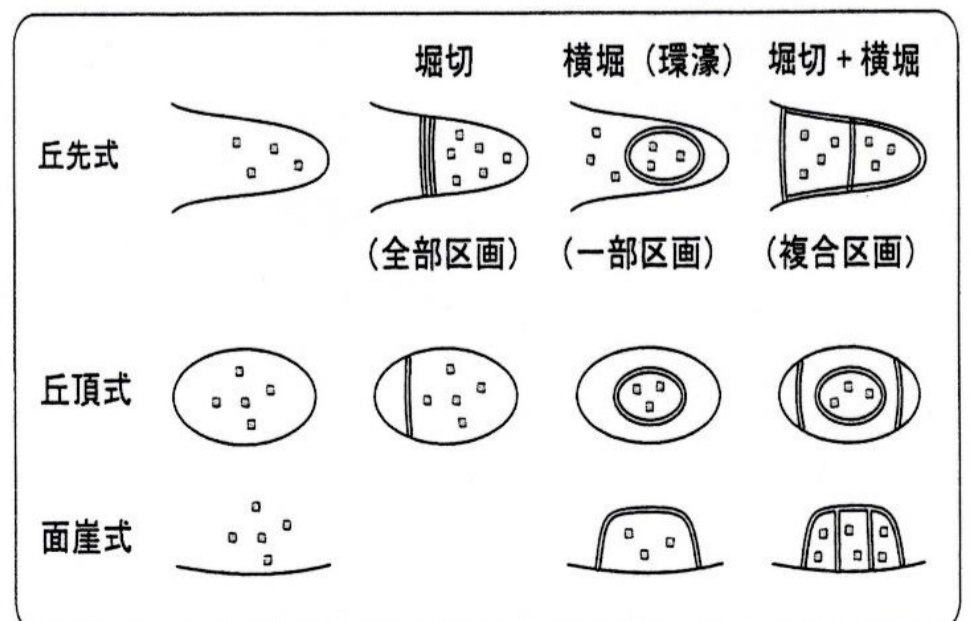


六ヶ所村の7つの城館



防御性集落の形態模式図

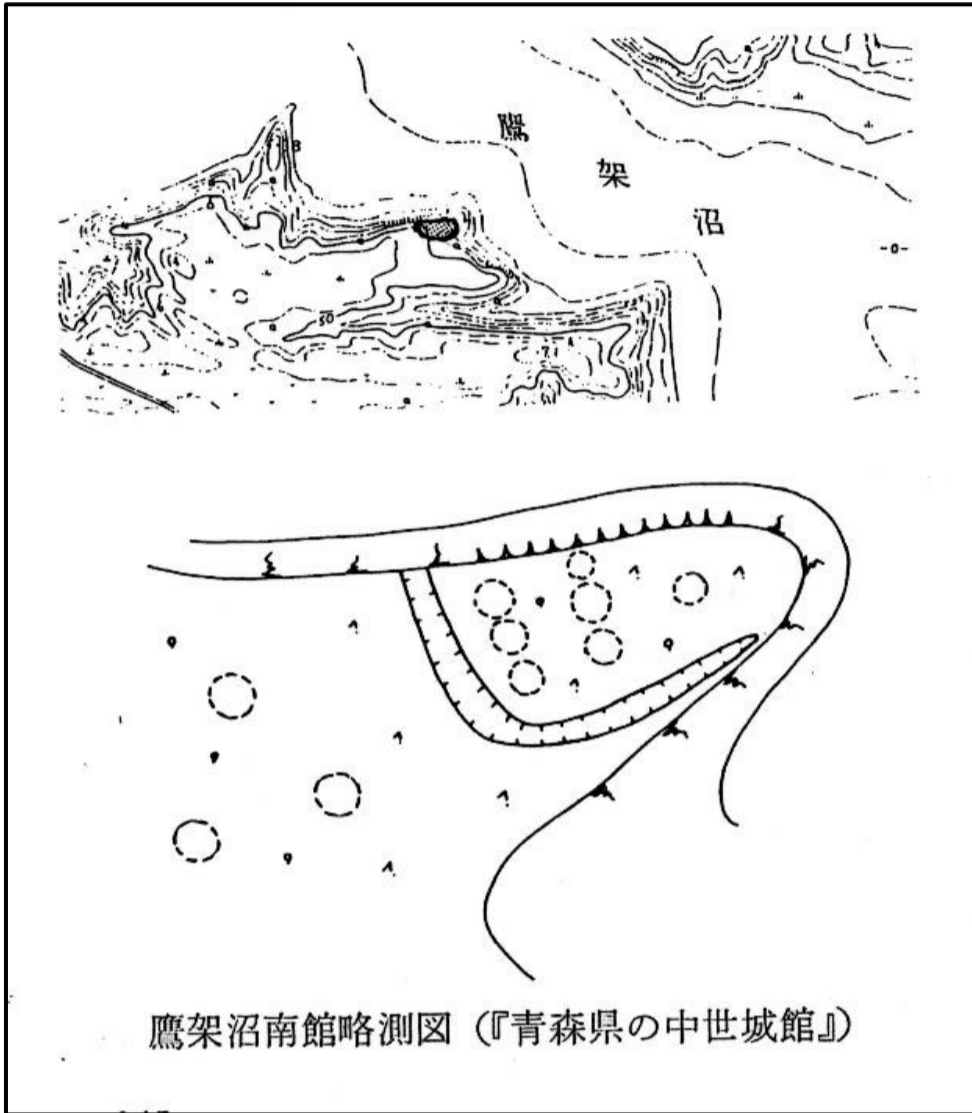
青森県史 「飛鳥～平安」 P353 図III-2-2-2-4 より掲載



4 鷹架沼南館

10 世紀後半～11 世紀

六ヶ所村鷹架字道ノ上



鷹架沼南館遠景 ※郷土館職員撮影

湖に突き出た丘で、湖上からはあまりにも目立ちすぎ！

- (1) 位置：鷹架沼のほぼ中間地点南岸、台地が舌状になって沼に突き出た所にある。約 45 m の断崖となっている。
- (2) 郭：東西約 50m、南北約 30m の規模である。
- (3) 住居跡：郭内に七基の住居跡の落ち込みがあり、深さが 1m に達するものもある。郭外やその周辺にも多数の落ち込みがあり、舌状先端の北側の湖面側が崩落し広がっている。
- (4) 堀：舌状の基に幅 5m 深さ約 1.5m の空堀を入れ、背後から切り離している。この堀は東側に延び、先端部近くで消滅する。北側は、自然の沢を利用し、豎堀のような状態となっている。